第２回　新時代とやまハイスクール構想検討会議　議事概要

１　日　時　　令和７年６月３日（火）　10:30～12:00

２　場　所　　県庁４階大会議室

３　委員出席者

新田　八朗	廣島　伸一	坪池　宏	大西　ゆかり
黒田　卓	牧田　和樹	松岡　理	伊東　潤一郎
佐伯　真未	品川　祐一郎	白江　日呂雄	杉木　貴文
南部　初世	林　誠一	本江　孝一	松山　朋朗

４　会議の要旨

司会が開会を宣し、知事（会長）が挨拶した。

知事挨拶

（知事）

２回目の検討会議にご参加いただきありがとうございます。

１回目は先月開催してまだ記憶に新しいところですが、今年の３月に取りまとめた新時代とやまハイスクール構想の基本方針に基づき、大規模校のあり方について、様々なご意見をいただいたところです。

本日の議題に関しては、この大規模校の設置方針などについて、より詳しく検討していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

検討にあたって先日、教育長、教育委員の皆様に、公立では日本最大級の大規模校である埼玉県立伊奈学園総合高校をご視察いただきました。詳細は後程ご報告いただきますが、多くの教員による幅広い科目が設定されていて、生徒たちがその中から、学びたい科目を選択できるという「マイ時間割」みたいなものを作り、学習ができる学校となっています。

昨年度実施した高校２年生と教員へのアンケートでは、将来の県立高校に求めるものとして、学習内容を選択できる仕組みがあればいいという回答が最も多い結果でしたが、これは大規模校のメリットでもあるので、この結果も踏まえて検討していきたいと思います。引き続き「こどもまんなか」の視点で忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

議事事項

○　大規模校（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）における教育の現状について

資料に基づき事務局から説明した。

（委員）

まず、視察に参加いただきました教育委員の皆さんから、感想をお願いします。

（委員）

午前中という短い時間で学校の説明と授業見学をしましたが、その中で感じたこと、印象に残ったことについて話します。

まず全体を通して、生徒達は楽しい学校生活を送っているという印象を持ちました。特に休み時間の生徒は、自分の時間割に沿って大移動をするのですが、生徒の表情に、活気を感じました。同時に、すべて自分の時間割が頭に入っていて、それに従って行動するため、自己管理能力のようなものも備わっているように思いました。授業においても、アクティブラーニングが行われ、主体的に取り組んでいました。楽しい学校生活の一つの要素として、自分で選んだ授業を受けている、或いは自分の興味のある授業を受けているといったことがあるのではないかと思います。こうしたことが大規模校の特徴だと思います。

また、実際に見ていませんが、特別活動や部活動はかなり盛んなようです。これも大規模校の特徴だと思います。自分で時間割を作るため、オリエンテーション等のキャリア教育も充実している印象を受けました。全体を通して、大規模校の魅力を最大限に生かした学校という印象です。

これまでの方法で本県の再編を進めていくと、特に普通科では、すべての高校が同じような教育課程になっていかざるをえないのでないかと思います。そういう意味では、この大規模校の視察は、本県で参考にすべき点が多いと思いました。ただ、生徒の活力ある姿については、高校に入って身に付けたものか、もともと中学校で身に付いていたものか、わからないと思いました。学校を見る時には、どんな子どもたちが入ってくるかという視点も大事だと思います。

これまで基本方針では、東西１校ずつ設置することになっていました。これは大規模校のサイズと、高校生の通学の両面を考慮した結果だったと思いますが、伊奈学園総合高校の視察によって、サイズを優先する考え方もあるのではないかと思います。つまり、県下で１校という選択もあるのではないかと思います。ただ、県下全体の中卒者数の人数や中卒者に占める大規模校の人数の割合は、埼玉と富山では随分違うと思います。また、生徒や保護者のニーズも、埼玉と富山では全然違うので、伊奈学園総合高校のシステムをそのまま持ってくる、或いは少し縮小して持ってきて、ミニチュア版を設置するということについては、課題があるのではないかと感じています。

今後、本県で大規模校を設置するのであれば、伊奈学園総合高校で使われているシステムのいいところをしっかり吸収して、本県ならではの大規模校の教育課程も研究していく必要があるのではないかと感じました。

（委員）

私は子どもたちの様子について、注目して見てきました。本当に大勢の子どもたちが廊下を歩くところや授業の様子を見て、子どもたちが伸びやかで自然体で過ごしている様子が見てとれました。子どもらしい子どもという印象を持ちました。２、３年生は、多くの割合の教科を自己選択することになりますが、193 という多様な科目、それぞれが高い専門性があるとの説明を受けました。見学をした生物や外国語の授業でも見てとれましたが、本当に高い専門性を持って学ぶことができ、その科目を自分で選択することから、生徒たちの学びに向かう意欲も高まっていくのではないかと感じました。

また、不登校が少ないということが印象に残りました。富山県内でも不登校の生徒が増えていますが、その理由は学校生活にやる気が出ない、不安、抗うつが理由のトップになっています。伊奈学園総合高校は、まさにその逆なのだろうと思いました。保健室の見学もしましたが、2,000 人を超える生徒がいる学校にもかかわらず、保健室に案内された時には生徒は誰もいない状況でした。生徒はみんな教室で、授業に取り組んでいるということが見てとれました。

全般的な感想としては、伊奈学園総合高校は、メリットを超えて魅力でしかないという印象を持ちました。

富山県で展開する場合、同じ形というわけにはいかないと思うので、富山県らしい工夫が必要かと思います。富山の子どもたちにも、できる限りの大きな魅力を持った県立高校を準備するのが私たちの役目なのかなと感じました。

（委員）

今、不登校の生徒が少ないというお話がありましたが、私もそこは非常に感じたところです。生徒自身のやりたいことを追求していける環境が用意されていること。また、保健室が非常に大きく、高校と併設中学校の先生４名で保健室を担当されていることで、普通の学校だと養護教諭の先生は１名か２名で、生徒と１対１の関係でいろいろなカウンセリング等を行っていると思いますが、複数対複数という形でチームで生徒と関わっていける環境を作られているのは、素晴らしいと感じました。

それから、教室や学校設備が非常に充実していることに加え、ハウス制を取り入れて運営されており、大きな学校ですが、一体として運用する場合とそれぞれのハウスという小さい範囲で動く場合とうまく使い分けられていて、いろいろな運用の仕方で大規模校、中規模校、小規模校のよさを取り込んでいける仕組みが作られていました。中規模ぐらいの学校をいくつか合わせた形ですが、いろいろな施設を共通で使えるため、そういう意味では、そのまま３校作るよりもコスト的にもメリットがあるというお話も印象に残っています。

（委員）

私からは 1 つの感心と 5 つのポイントで、本県に大規模校を設置するとしたら、伊奈学園総合高校のどういうことが参考になるのか述べたいと思います。

まず、学校の説明によると、昭和 59 年の学校設置時に文部省の方から、選択制の学校を今後進めていくという投げかけがあり、それを当時の埼玉県知事が決断をされたのか、教育委員会で決断されたのかわかりませんが、それによって設置されたのがすごいと思い感心しました。これは、文部省が出す情報に非常に早く反応した結果だろうと思っていて、文部科学省からの情報を早く取り込んで対応できる体制をぜひ本県でも取り入れていくべきだろうと思いました。

伊奈学園総合高校のいろいろなことを見て、本県のハイスクール構想の基本方針について考えたのですが、高校入学段階ですべての子どもたちがすべて同じ学力ということはなく、学力格差があるため、まずは、この総合選択制に対応できる学力レベルのボリュームゾーンというのが必然的に決まると思っています。

２つ目は、先生の数が本当に多く、先生方の働き方改革にもつながっており、切磋琢磨する環境があって非常にやりがいを生むことができています。アテンドしてくださった副校長先生がいろいろなことを説明してくれましたが、ものすごく楽しそうに生き生きと自分たちの学校のことを語っている姿を見て、先生方はここで教えること、働くことにすごく生きがい・やりがいを感じているのだなと感じました。

３つ目は、選択できる科目の数も大きなポイントで、多ければ多いほうがいいだろうと思います。

４つ目は、本県の人口規模と埼玉県の人口規模を単純に比較した時に、本県の人口からいくと、この選択制の学校の数は、ある程度限られてきます。

５つ目は、伊奈学園総合高校には学校のためのニューシャトルの駅があるように、公共交通を使って通学できる環境が抜群に整っています。本県も比較的公共交通で移動しやすい環境があります。基本方針では大規模校を２校とすることを議論したのですが、この 5 つの理由からこれは覆してもいいような気がしています。つまり、伊奈学園総合高校の視察から大規模校を１校、子どもたちが通いやすいところに設置するのがよいと感じました。

（委員）

委員の皆さんからもご意見をいただきたいと思います。

（委員）

令和５年度の動きは存じ上げていたものの、このハイスクール構想を初めて見せていただいた時には、かなり思い切った案だと思いました。しかし、各校の特色を生かしたいろいろなタイプを選択できる学校制度を志向している点は、とても良いことだと考えています。肝心なのは、学校のこれまでの伝統を生かしつつ、具体的にどのような特色を打ち出していけるかということで、それは大規模校に限った話ではありません。いろいろな特色を出していく中で大事なのは、生徒や保護者に、それぞれの特色をいかに理解していただけるかということだと思います。

ご承知のように、多くの県でこれまでいろいろな高校改革が行われてきましたが、例えば、今話題に出ている総合選択制の高校は、当時の文部省が「新しいタイプの学校」ということで打ち出そうとしていたものに、最初に伊奈学園総合高校が手をつけたということになります。この「新しいタイプの高校」ができた時は、世間的にも、研究者の側にも非常に大きな期待がありました。しかしなかなかうまくいかない面も一部であり、それぞれの学校でたくさんの選択科目を選べるのですが、実際に入学後、自分の将来にとって何が必要かを考えて科目を選んでいくことは、子どもたちにとって非常に難しく、他県の総合選択制の高校が悩んでいることとして、安易な科目選択をしてしまうことが挙げられます。また、せっかく「新しいタイプの高校」を設置し、様々な広報をしていても、保護者や子どもたちにどういう学校かということや、その魅力が十分に伝わっていない場合も、他県では多くあります。実際に通った生徒にアンケートをとると、非常によかったという声も多く、総じて満足度が高いのですが、なかなかそれが周りに伝わっていきません。それぞれの学校で、この学校でどういう科目が選択でき、それがどういう出口につながっていくのかということも含めて、伝えていくことが大事だと思います。入る前の情報提供と、入

ってからの丁寧なオリエンテーション等の取組みが一番重要です。
　また、この後の議論になるのだと思いますが、改革の手順が非常に難しいと考えています。これについては、地域の状況も踏まえて、丁寧に考えていく必要があると思います。

（委員）
　大規模校の設置についてはもともと賛成で、メリット等は先ほどから言われた通りだと思います。
　加えて、今ほど皆さんのお話を聞いて、いろいろと課題もあるということですので、中途半端に２校作るよりは交通の便のいいところに１校、私立高校とも共存するイメージで、富山県として特色ある大規模校を１校作り、大規模校のデメリット等については、中規模校・小規模校で補った方がいいのではないかと思います。
　私が思う大規模校のメリットは、中学生の段階でなかなか将来の選択を決めきれない生徒さんが最近増えている中で、高校に入ってから自分の進路や将来の夢、希望に応じた形で多様な選択ができ、また多くの仲間と社会性を育むことができ、部活動やスポーツなどにも多くの仲間と多様な選択肢の中から取り組めることだと思います。また一方、教員の皆さんの働き方改革にもつながることや、多くの先生方の中で切磋琢磨し研鑽を積めることで、教育の質も上がることもあるかと思います。このメリットを生かす形で、ぜひ富山県として大規模校の導入に踏み切り、２校が難しければ１校を交通の便の良い場所に設置することを検討されるべきでないかと思いました。

（委員）
　伊奈学園総合高校についてお伺いしたいことがあります。１つは、学校設置時における選択科目の設定についてです。昭和 59 年に設置されたということで、設置当初、開講する選択科目をどのような観点で設定されたのかということです。子どもたちのニーズを測るのはかなり難しいことで、また、入学した後に生徒がこうしたいというケースもあると思います。もう１つは選択制が今でも続いていますが、設定した科目に生徒があまり集まらず、開講されている選択科目が変遷している可能性もあります。すべての科目が開講されているのであれば結構ですが、年度によって希望する生徒数に大きな差があると、必要な教員数も変わると思います。学校設置時と設置後の選択科目やその教員の配置について何か情報があれば教えてください。

（事務局）
　今ほどのご質問の件については、設置当初のところまで詳細はお聞きできていないこともあり、今後お聞きしていきたいと思っています。

（委員）
　その時その時に工夫はしておられるという話をお聞きしましたが、具体的にどうなっているかは、今一度確認させていただければと思います。

（委員）
選択科目の設置について、どういうプロセスで設置されたかは伺わなかったのですが、例えばドイツ語や中国語などの外国語があるので、要望があった時に、どうやってそれを選択科目に入れたかという話は聞きました。民間機関の方との連携、つまり全てを学校で丸抱えするのではなく、外部の力をかなり有効に取り入れて、設置されていたので、すごいなと思いました。

（委員）
民間の方も非常勤講師として実際に指導していただくなど、非常勤講師まで含めると教員が約 200 名という規模ということです。先ほどの生徒の選択に関しては、このような分厚い選択ハンドブックができており、これを使って一人一人とかなり丁寧に話をしながら、どういう科目を選んでいくかみたいなところを、１年生は基本全部必修科目や共通科目を受けますが、２年次以降の選択科目については、オリエンテーションを行いながら決めていくという話を受けました。

（委員）
ハンドブックを活用しますが、先生によって、指導する内容が変わるのではないかと聞いたら、「内容が変わることは多少あるかもしれないが、暗黙知を共有する取組みも行っています。」ということで、普段から先生間でコミュニケーションをとることで、流れがしっかりできており、これもすごいなと思っています。

（会長）
今、感想の中でも出ましたが、本県と埼玉県との規模の違い、また、1984 年に開校されたという時代背景などを考えると、本県で１学年 20 クラス規模は厳しいという思いを持っていますが、視察いただいた皆様のご意見・感想は大変参考になりました。ある意味では、大規模校の設置の意を強くしたところです。
あとは教育内容をどうするか、どこに設置をするのが適切なのかを伊奈学園総合高校さんも参考にしながら、引き続き検討していきたいと思います。
また複数の委員から、今は、基本方針には 2 校と置いてあるが、サイズを優先する、或いは、メリットを最大限に発揮させる観点から、１校に集中するというのも１つの考え方ではないかというご意見をいただきました。これについては大きな決断なので、様々な面から検討する必要があると思います。

議事事項

○　大規模校の設置方針などについて（非公開）

進行より、設置要綱第５条第３項、１号２号の規定に基づき、以後の会議を非公開とすることを委員に諮ったところ、異議はなく、以後の会議は非公開で行われた。

５　閉会

12 時 00 分、司会が閉会を宣した。